

担	日本労働研究機構(会長 高梨 昌) 計量情報部長 白石 栄司 動向分析課長代理 石水 喜夫
当	(電話) 5321 - 3063 (直通)

1999年のラスパイレス賃金指数(産業計)は100.0
対前年比0.7%減で、98年に続き減少
(1999年のラスパイレス賃金指数)

日本労働研究機構は1998年7月にラスパイレス賃金指数の開発を行ったが、この度、ラスパイレス賃金指数のベースになる「賃金構造基本統計調査」(平成11年)が発表されたので、これに基づく1999年のラスパイレス賃金指数を作成した。ここでその結果を報告する。

ラスパイレス賃金指数は、労働者構成を固定することによって労働者構成の変化や格差に伴う影響を除去し、純粹に賃金のみの変化(格差)を示すものである。ラスパイレス賃金指数には、時系列指数と格差指数の2種類があって、時系列指数は1995年の労働者構成で固定して作成される。時系列指数の上昇率はベースアップ上昇率に相当する。また格差指数は毎年の産業計、規模計の労働者構成を固定して作成される。

< ポ イ ン ト >

1 産業計時系列指数

- ・1999年の指数は、100.0となり、4年前の95年と同水準。
- ・前年比では、0.7%減。98年の0.1%減に続き、減少。

2 産業別時系列指数

- ・運輸・通信業(-1.7%)、製造業(-1.1%)、卸売・小売業、飲食店(-0.4%)、サービス業(-0.3%)、建設業(-0.1%)の各産業で前年比減少。

3 規模別時系列指数

- ・産業計の1,000人以上(-0.4%)、100~999人(-0.7%)、30~99人(-0.8%)と全ての企業規模において前年比減少。

4 産業間格差指数

- ・産業間の賃金格差は、産業計を100.0として水準が高いのは金融・保険業の115.1、サービス業の103.9、低いのは製造業の94.7、運輸・通信業の96.1。
- ・1990年、95年と比べて金融・保険業、製造業間の格差は縮小。

5 規模間格差指数

- ・産業計の1,000人以上を100.0として、100~999人は92.4、10~99人は89.8。
- ・1995年と比べると、規模間格差はやや拡大している。

- (注) 1) 固定する労働者構成の属性は参考表の通りで、またラスパイレス賃金指数の賃金は所定内給与である。対象となる労働者は、パートタイム以外の一般労働者で、企業規模は10人以上である。なお、本報告で「通常の(対前年)上昇率」、「通常の格差」とあるのは、賃金構造基本統計調査の結果数値そのものの上昇率であり、格差である。

(参考表) 固定した労働者構成の属性

性	男			女		
	中卒	高卒	高専・短大卒	大卒		
学 歴	~17歳	18~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳
	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65歳以上
年齢階級	0年	1~2年	3~4年	5~9年	10~14年	
		15~19年	20~24年	25~29年	30年以上	
勤続年数						

- 2) ラスパイレス賃金指数の定義は次の通り。

通常賃金指数は、単純に賃金総額を労働者総数で除して得られる平均賃金を指数化して作成される。この平均賃金の上昇率は、賃金上昇率と呼ばれているが、この賃金上昇率は労働者の賃金の変化を正確に反映していない場合がある。

例えば、人口の高齢化が進んで労働者の年齢構成が高くなると、年功序列的な賃金体系のもとでは定昇の効果から、賃金表の改定がなくても平均賃金は上昇する。

つまり、平均賃金にもとづく賃金指数は企業側からみた労働者1人当たりの労務コストを示しているが、労働者にとっての賃金の水準や上昇率を示していない場合がある。

また、労働者構成の異なる産業間、規模間で賃金を比較する場合でも、通常平均賃金では単に労務コストの大小を比較しているにすぎなく、厳密に労働者にとっての賃金の比較にはなっていない。

そこで労働者構成の変化や相違の影響を受けない賃金指数が求められるが、労働者構成で固定するラスパイレス賃金指数はまさにそうした目的で開発されたものである。

- 3) 日本労働研究機構ホームページ(<http://www.jil.go.jp/statis/index.htm>)でもご覧になれます。

1 ラスパイレス賃金時系列指数

(1) 産業計

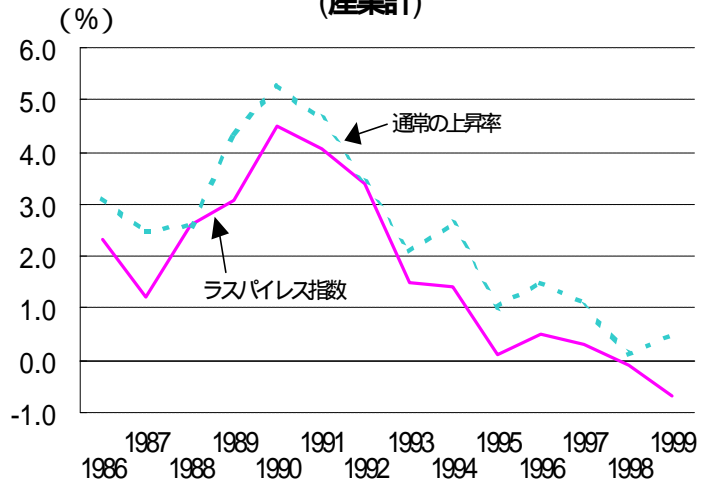
1999年(6月、以下同)のラスパイレス賃金指数(1995年=100)は産業計で100.0となり、4年前の95年と同水準となった。また前年比は0.7%減で98年の0.1%減に続き減少した(表1、図1)。

一方、99年の通常の上昇率は0.5%で、ラスパイレスの上昇率より1.2%ポイント高い0.5%となっている。

**表1 ラスパイレス賃金指数表
(産業計)(各年6月、1995年=100)**

年	ラスパイレス指数		通常の上昇率
	ラスパイレス指数	上昇率	
1985	78.7	-	-
1986	80.5	2.3	(3.1)
1987	81.5	1.2	(2.5)
1988	83.6	2.6	(2.6)
1989	86.2	3.1	(4.3)
1990	90.1	4.5	(5.3)
1991	93.8	4.1	(4.6)
1992	97.0	3.4	(3.4)
1993	98.5	1.5	(2.1)
1994	99.9	1.4	(2.6)
1995	100.0	0.1	(1.0)
1996	100.5	0.5	(1.5)
1997	100.8	0.3	(1.1)
1998	100.7	-0.1	(0.1)
1999	100.0	-0.7	(0.5)

**図1 ラスパイレス指数上昇率
(産業計)**



(2) 産業別

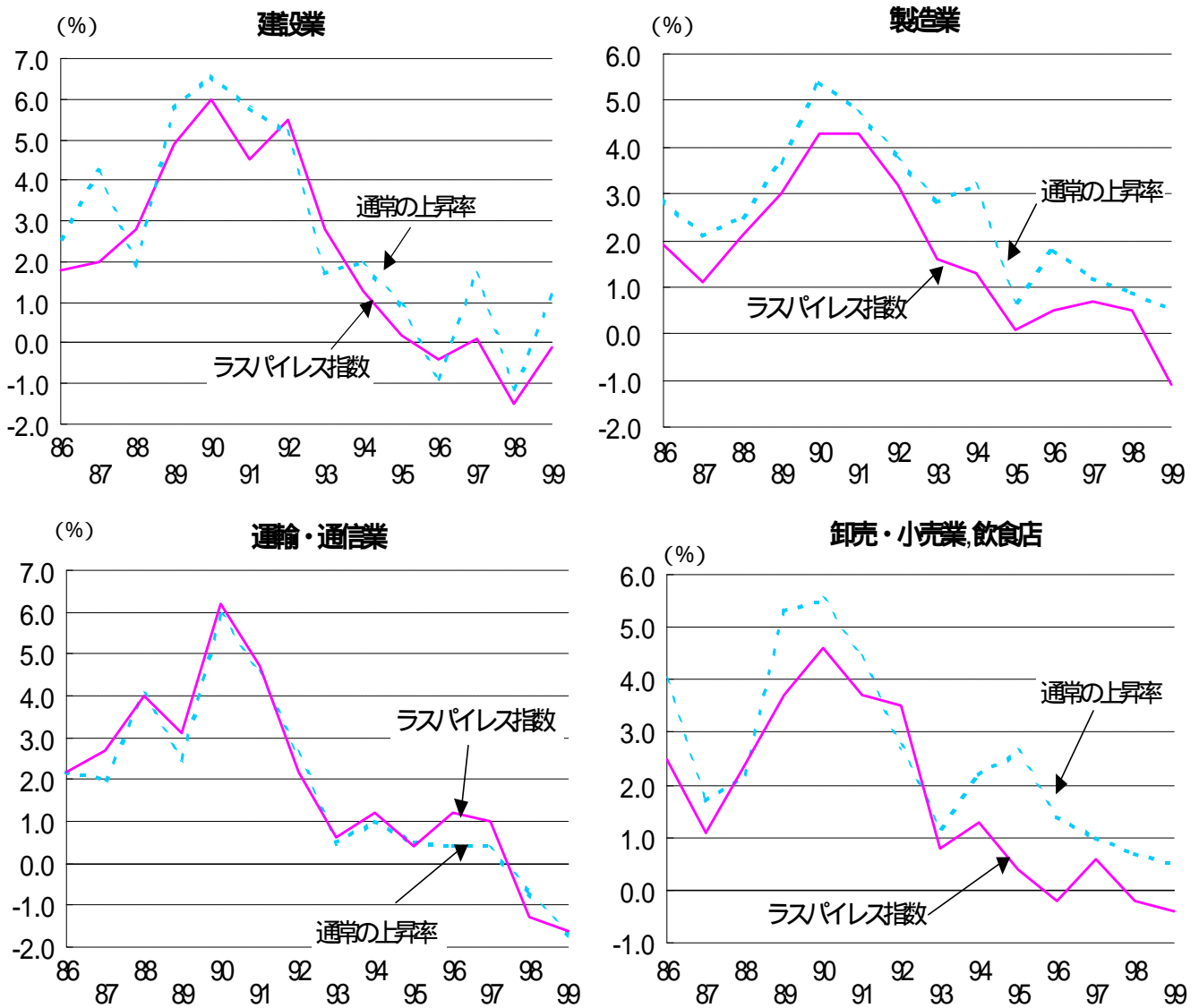
1999年のラスパイレス賃金指数を産業別にみると、サービス業 100.9、製造業 100.6、卸売・小売業、飲食店 99.8、運輸・通信業 98.4、金融・保険業 98.3、建設業 98.1となっていて、4産業で100を下回っている。(表2、図2)。また前年と比べると、運輸・通信業(-1.7%)、製造業(-1.1%)、卸売・小売業、飲食店(-0.4%)、サービス業(-0.3%)、建設業(-0.1%)と各産業で減少した。

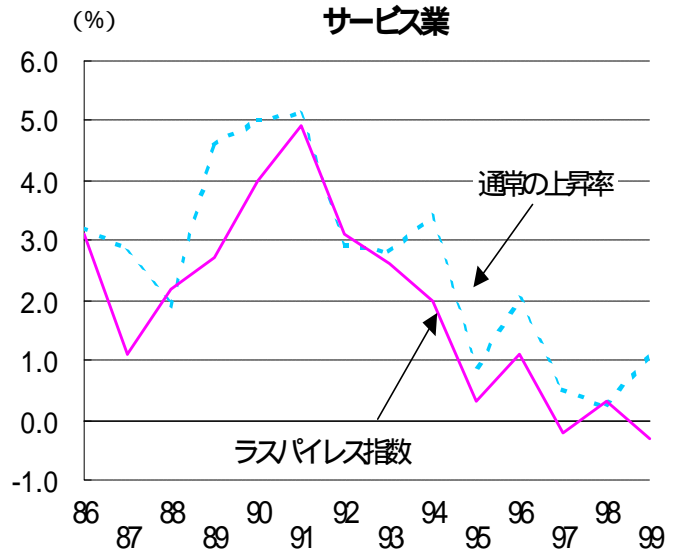
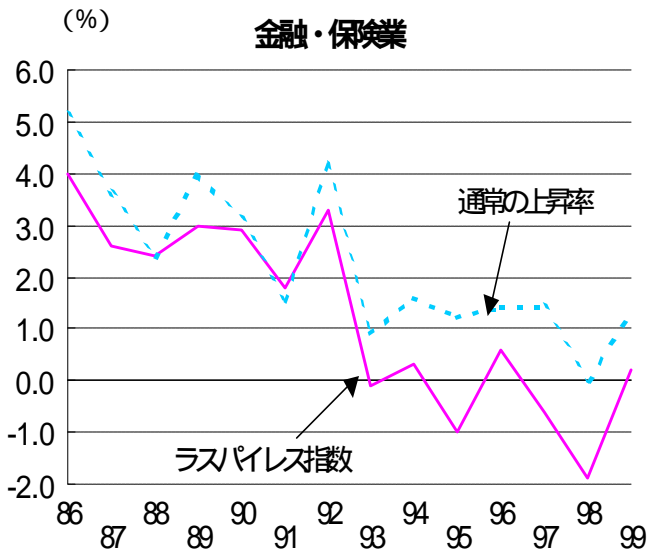
表2 産業別ラスパイレス賃金指数表(各年6月)(1995年=100)

年	建設業			製造業			運輸・通信業		
	ラスパイレス指数	通常の上昇率		ラスパイレス指数	通常の上昇率		ラスパイレス指数	通常の上昇率	
		上昇率	%		上昇率	%		上昇率	%
1985	73.3	-	-	79.8	-	-	77.7	-	-
1986	74.6	1.8	(2.6)	81.3	1.9	(2.9)	79.4	2.2	(2.2)
1987	76.1	2.0	(4.2)	82.2	1.1	(2.1)	81.0	2.0	(2.7)
1988	78.2	2.8	(1.9)	83.9	2.1	(2.5)	84.2	4.0	(4.0)
1989	82.0	4.9	(5.8)	86.4	3.0	(3.7)	86.3	2.5	(3.1)
1990	86.9	6.0	(6.6)	90.1	4.3	(5.4)	91.4	5.9	(6.2)
1991	90.8	4.5	(5.8)	94.0	4.3	(4.8)	95.5	4.5	(4.7)
1992	95.8	5.5	(5.2)	97.0	3.2	(3.8)	98.0	2.6	(2.2)
1993	98.5	2.8	(1.7)	98.6	1.6	(2.8)	98.5	0.5	(0.6)
1994	99.8	1.3	(2.0)	99.9	1.3	(3.2)	99.5	1.0	(1.2)
1995	100.0	0.2	(0.9)	100.0	0.1	(0.7)	100.0	0.5	(0.4)
1996	99.6	-0.4	(-0.9)	100.5	0.5	(1.8)	100.4	0.4	(1.2)
1997	99.7	0.1	(1.7)	101.2	0.7	(1.2)	100.8	0.4	(1.0)
1998	98.2	-1.5	(-1.1)	101.7	0.5	(0.9)	100.1	-0.7	(-1.3)
1999	98.1	-0.1	(1.1)	100.6	-1.1	(0.5)	98.4	-1.7	(-1.6)

年	卸売・小売業, 飲食店			金融・保険業			サービス業		
	ラスパイレス指数	通常の上昇率		ラスパイレス指数	通常の上昇率		ラスパイレス指数	通常の上昇率	
		上昇率	上昇率	上昇率	上昇率	上昇率	上昇率	上昇率	上昇率
		%	%		%	%		%	%
1985	78.8	-	-	82.9	-	-	77.3	-	-
1986	80.8	2.5	(4.0)	86.2	4.0	(5.1)	79.7	3.1	(3.2)
1987	81.7	1.1	(1.7)	88.4	2.6	(3.6)	80.6	1.1	(2.8)
1988	83.7	2.4	(2.2)	90.5	2.4	(2.4)	82.4	2.2	(1.9)
1989	86.8	3.7	(5.3)	93.2	3.0	(4.0)	84.6	2.7	(4.6)
1990	90.8	4.6	(5.5)	95.9	2.9	(3.1)	88.0	4.0	(5.0)
1991	94.2	3.7	(4.4)	97.6	1.8	(1.5)	92.3	4.9	(5.1)
1992	97.5	3.5	(2.7)	100.8	3.3	(4.2)	95.2	3.1	(2.9)
1993	98.3	0.8	(1.2)	100.7	-0.1	(0.9)	97.7	2.6	(2.8)
1994	99.6	1.3	(2.2)	101.0	0.3	(1.6)	99.7	2.0	(3.4)
1995	100.0	0.4	(2.6)	100.0	-1.0	(1.2)	100.0	0.3	(0.9)
1996	99.8	-0.2	(1.4)	100.6	0.6	(1.4)	101.1	1.1	(2.0)
1997	100.4	0.6	(1.0)	100.0	-0.6	(1.4)	100.9	-0.2	(0.5)
1998	100.2	-0.2	(0.7)	98.1	-1.9	(0.0)	101.2	0.3	(0.2)
1999	99.8	-0.4	(0.5)	98.3	0.2	(1.3)	100.9	-0.3	(1.1)

図2 産業別ラスパイレス指数上昇率





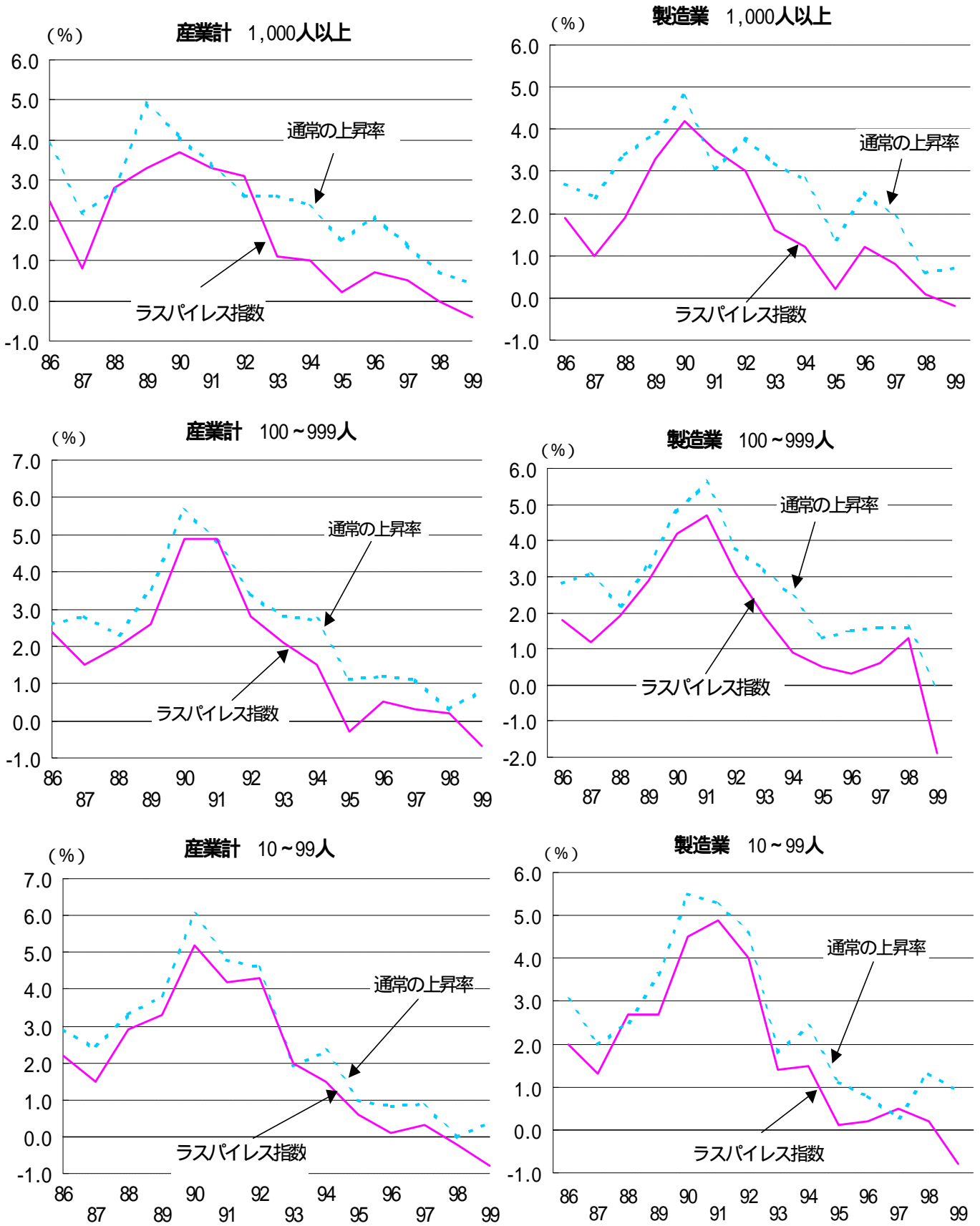
(3) 規模別

1999年のラスパイレス賃金指数を規模別にみると、産業計の1,000人以上は100.8、100～999人は100.3、10～99人は99.4となっている(表3、図3)。また前年と比べると、産業計の1,000人以上(-0.4%)、100～999人(-0.7%)、30～99人(-0.8%)と全ての企業規模において減少した。

表3 企業規模別ラスパイレス賃金指数表(各年6月)(1995年=100)

年	1,000人以上			100～999人			10～99人		
	ラスパイレス指数	通常の上昇率	通常の上昇率	ラスパイレス指数	通常の上昇率	通常の上昇率	ラスパイレス指数	通常の上昇率	通常の上昇率
		%	%		%	%		%	%
産業計									
1985	80.7	-	-	78.7	-	-	76.0	-	-
1986	82.7	2.5	(3.9)	80.6	2.4	(2.6)	77.7	2.2	(2.9)
1987	83.4	0.8	(2.2)	81.8	1.5	(2.8)	78.9	1.5	(2.4)
1988	85.7	2.8	(2.7)	83.4	2.0	(2.3)	81.2	2.9	(3.3)
1989	88.5	3.3	(4.9)	85.6	2.6	(3.5)	83.9	3.3	(3.8)
1990	91.8	3.7	(4.1)	89.8	4.9	(5.7)	88.3	5.2	(6.0)
1991	94.8	3.3	(3.4)	94.2	4.9	(4.8)	92.0	4.2	(4.8)
1992	97.7	3.1	(2.6)	96.8	2.8	(3.4)	96.0	4.3	(4.6)
1993	98.8	1.1	(2.6)	98.8	2.1	(2.8)	97.9	2.0	(1.9)
1994	99.8	1.0	(2.4)	100.3	1.5	(2.7)	99.4	1.5	(2.3)
1995	100.0	0.2	(1.5)	100.0	-0.3	(1.1)	100.0	0.6	(1.0)
1996	100.7	0.7	(2.1)	100.5	0.5	(1.2)	100.1	0.1	(0.8)
1997	101.2	0.5	(1.4)	100.8	0.3	(1.1)	100.4	0.3	(0.9)
1998	101.2	0.0	(0.7)	101.0	0.2	(0.3)	100.2	-0.2	(0.0)
1999	100.8	-0.4	(0.4)	100.3	-0.7	(0.8)	99.4	-0.8	(0.4)
製造業									
1985	80.6	-	-	79.7	-	-	78.1	-	-
1986	82.1	1.9	(2.7)	81.1	1.8	(2.8)	79.7	2.0	(3.0)
1987	82.9	1.0	(2.4)	82.1	1.2	(3.1)	80.7	1.3	(2.0)
1988	84.5	1.9	(3.4)	83.7	1.9	(2.2)	82.9	2.7	(2.5)
1989	87.3	3.3	(3.9)	86.1	2.9	(3.3)	85.1	2.7	(3.6)
1990	91.0	4.2	(4.8)	89.7	4.2	(4.8)	88.9	4.5	(5.5)
1991	94.2	3.5	(3.0)	93.9	4.7	(5.6)	93.3	4.9	(5.3)
1992	97.0	3.0	(3.8)	96.8	3.1	(3.8)	97.0	4.0	(4.6)
1993	98.6	1.6	(3.2)	98.6	1.9	(3.2)	98.4	1.4	(1.8)
1994	99.8	1.2	(2.8)	99.5	0.9	(2.4)	99.9	1.5	(2.4)
1995	100.0	0.2	(1.4)	100.0	0.5	(1.3)	100.0	0.1	(1.1)
1996	101.2	1.2	(2.5)	100.3	0.3	(1.5)	100.2	0.2	(0.8)
1997	102.0	0.8	(1.9)	100.9	0.6	(1.6)	100.7	0.5	(0.3)
1998	102.1	0.1	(0.6)	102.2	1.3	(1.6)	100.9	0.2	(1.3)
1999	101.9	-0.2	(0.7)	100.3	-1.9	(-0.1)	100.1	-0.8	(0.9)

図3 規模別ラスパイレース指数上昇率



2 ラスパイレス賃金格差指数

(1) 産業間格差

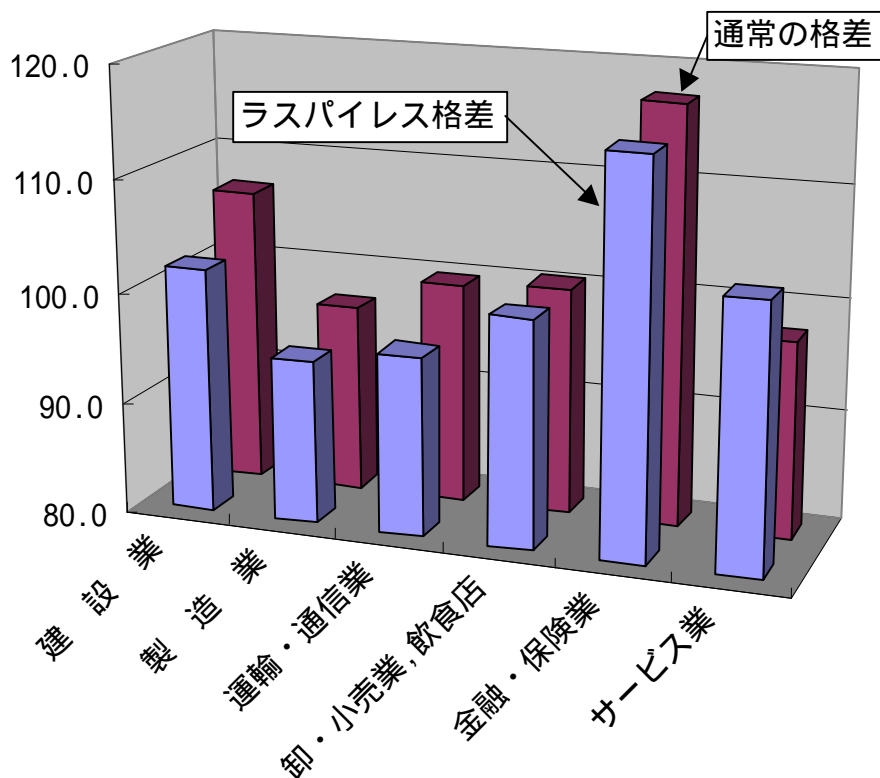
1999年の産業間のラスパイレス賃金格差指数は、産業計を100として、金融・保険業 115.1、サービス業 103.9、建設業 102.0、卸売・小売業、飲食店は100.4、運輸・通信業 96.1、製造業 94.7となっている(表4、図4)。

1995年と比較すると、水準の最も高い金融・保険業が0.9ポイント低下し、水準の最も低い製造業が0.5ポイント上昇している。この結果、金融・保険業と製造業間の賃金格差は1995年より縮小している。

表4 ラスパイレス賃金産業間格差指数表(各年6月)
(産業計=100)

産 業	1999年		1995	1990
	ラスパイレス格差	通常の間格差		
産 業 計	100.0	(100.0)	100.0	100.0
建 設 業	102.0	(106.7)	104.6	101.1
製 造 業	94.7	(96.9)	94.2	94.2
運 輸 ・ 通 信 業	96.1	(99.8)	98.0	98.4
卸 ・ 小 売 業 , 飲 食 店	100.4	(100.5)	101.0	101.3
金 融 ・ 保 険 業	115.1	(117.4)	116.0	123.9
サ ー ビ ス 業	103.9	(97.7)	103.0	101.0

図4 ラスパイレス賃金産業間格差指数
(産業計=100) 1999年



(2) 規模間格差

1999年の規模間のラスパイレス賃金格差指数は、1,000人以上を100として産業計で100～999人は92.4、10～99人は89.8となっている(表5、図5)。

1995年と比べると10～99人で1.3ポイント低下し、規模間格差はやや拡大している。

表5 産業別ラスパイレス賃金企業規模間格差指数表(各年6月)
(1,000人以上=100)

企業規模	1999年		1995	1990
	ラスパイレス格差	通常の格差		
産業計				
1,000人以上	100.0	(100.0)	100.0	100.0
100～999人	92.4	(82.8)	92.7	90.3
10～99人	89.8	(76.0)	91.1	88.5
製造業				
1,000人以上	100.0	(100.0)	100.0	100.0
100～999人	90.9	(79.4)	93.2	92.2
10～99人	89.5	(72.3)	92.0	91.4

(注)ラスパイレス格差指数は、各産業の規模計の労働者構成を基準として作成したものを1,000人以上=100に換算した。

図5 産業別ラスパイレス賃金企業規模間格差指数
(1000人以上 = 100) 1999年6月

